



「冬のみず」
油彩、キャンバス
481×851cm
2013年



赤い絵を中庭において、三か月の展示期間をともに過ごしたかった。僕は、岩手から離れて生活する。僕の相方は、岩手山の麓で刻々と変わる風景そして厳しい寒さや雪を受け入れていた。絵は常に外気にさらされていた。けれども僕は安心していた。絵のある時空間を想像すると、ゆっくりとした絵の思つかいが感じられたので、僕には何の不安もなかった。

今、「冬のみず」は僕の手元に戻り、僕自身ができることがなかった出来事を包み込んだままアトリエで静かに休息している。眠るように、疲れを癒すかのように。リフレッシュして、いつかまた今度はホワイト・キューブでの展示を迎えるだろう。その時さまざまな経験を消化した彼が、人工のライトのもとで、どんな姿を見せてくれるのか。そのいつかと変化を楽しみに待つものである。

(二〇一三年度特別研究制作研究費助成)

東島毅+本田健展 冬のみず、山あるき
岩手県立美術館
二〇一三年十一月十六日(土)〜二〇一四年
二月十六日(日)